

[主催] 同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)

[共催] 同志社大学 神学部・神学研究科

CISMOR 公開シンポジウム

激変する中東の深層を読む

【講師・パネリスト】

小原 克博 (同志社大学神学部教授、CISMOR センター長)

内藤 正典 (同志社大学グローバル・スタディーズ研究科長／教授、CISMOR 幹事)

村田 晃嗣 (同志社大学法学部長／教授、CISMOR 幹事)

2011年7月30日(土) 13:00～15:15

同志社大学 今出川キャンパス

明德館1階 M1 教室



○ 入場無料・事前申込不要

○ お問い合わせ先

同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)

TEL. 075-251-3972

E-mail: info@cismor.jp

HP: <http://www.cismor.jp/>

【プログラム】

- | | | |
|----------------|-------------|---------------------------------------|
| 1) 開会挨拶 | 13:00-13:05 | サミール・ヌーフ
同志社大学高等研究教育機構教授、CISMOR 幹事 |
| 2) 講演 | 13:05-13:30 | 小原 克博
“宗教は民主主義に必要か” |
| | 13:30-13:55 | 内藤 正典
“「アラブの春」への懐疑” |
| | 13:55-14:20 | 村田 晃嗣
“オバマの苦悩” |
| 3) パネルディスカッション | 14:20-14:45 | |
| 4) 質疑応答 | 14:45-15:15 | |

【講師・パネリスト紹介】

小原克博 (こはら かつひろ) 同志社大学神学部教授、CISMOR センター長

1965 年、大阪生まれ。マインツ大学、ハイデルベルク大学（ドイツ）に留学。同志社大学大学院神学研究科博士課程修了。博士（神学）。

現在、同志社大学神学部教授、一神教学際研究センター長（2010 年 8 月～）。

専門は、キリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究。現代社会が直面する先端的課題に対し、生命倫理、エコロジー、フェミニズムなど多様な学問領域を切り口にしながら応答を試みている。

著書として『宗教のポリティクス——日本社会と一神教世界の邂逅』（晃洋書房、2010 年）、『神のドラマツルギー——自然・宗教・歴史・身体を舞台として』（教文館、2002 年）、『原理主義から世界の動きが見える——キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』（共著、PHP 研究所、2006 年）、『よくわかるキリスト教@インターネット』（共著、教文館、2003 年）、『キリスト教と現代——終末思想の歴史的展開』（共著、世界思想社、2001 年）、『E U 世界を読む』（共著、世界思想社、2001 年）などがある。

内藤正典 (ないとう まさのり) 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科長/教授、CISMOR 幹事

1979 年東京大学教養学部教養学科卒業、1982 年同大学大学院理学系研究科地理学専攻博士課程中退。

1986 年から 2010 年まで、一橋大学にて教鞭をとる。この間、シリアのダマスカス大学文学部客員研究員やトルコのアンカラ大学政治学部客員研究員として留学。

2010 年 4 月より、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科長。一橋大学在任中より CISMOR の共同研究員を務め、その活動に深く寄与している。

専門は、現代イスラーム地域研究、イスラーム世界と西欧の国際関係。特にヨーロッパ諸国におけるムスリム移民の社会・文化的問題に関する研究の分野では『ヨーロッパとイスラーム—共生は可能か』(岩波新書、2004 年)、『神の法 vs. 人の法—スカーフ論争からみる西欧とイスラームの断層』(共著、日本評論社、2007 年) など著書多数。

村田晃嗣 (むらた こうじ) 同志社大学法学部長/教授、CISMOR 幹事

1964 年、神戸市生まれ。1987 年、同志社大学法学部卒業 (麻田貞雄先生外交史ゼミ出身)。1995 年、神戸大学大学院法学研究科博士課程 (国際関係論) 修了。その間に米国ジョージ・ワシントン大学留学 (1991-95 年)。1998 年、神戸大学博士 (政治学)。

広島大学総合科学部にて 1995 年～専任講師、1999 年～助教授。

2000 年～同志社大学法学部助教授 (外交史・安全保障政策論)、2005 年～教授。2011 年より同法学部長を務める。

第二次世界大戦後のアメリカの東アジア政策とその決定過程、日米安全保障関係の歴史と課題などを研究テーマにすえ、アメリカの情報公開法による資料の開示や日米双方の政策担当者へのインタビューを精力的におこなっている。また、単なる歴史研究にとどまらず、安全保障問題の現状分析や政策提言も意図しており、国際会議への出席や総合雑誌・新聞への寄稿なども活発に行っている。

京都経済同友会特別会員。京都日米協会副会長。

1996 年「変容する日米安保政策コミュニティー」『this is 読売 1997 年 1 月号』で読売論壇新人賞優秀賞、1999 年『大統領の挫折—カーター政権の在韓米軍撤退政策』でアメリカ学会清水博賞・サントリー学芸賞、2000 年『『国際国家』の使命と苦悩—1980 年代の日本外交』『戦後日本外交史』で吉田茂賞を受賞。

<次回ご案内>

主催:同志社大学—神教学際研究センター(CISMOR)、共催:同志社大学神学部・神学研究科

公開講演会

「現代中国におけるキリスト教—無神論社会を生きるクリスチャンたち」

【日時】 2011 年 8 月 27 日(土) 13:00—15:00

【会場】 同志社大学今出川キャンパス 神学館 3 階 礼拝堂

【講師】 薛恩峰(日本クリスチャンアカデミー・関東活動センター所長)

日本語講演/事前申込不要・入場無料

「アラブの春」への懐疑

内藤正典

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授

1. 「反乱」か「革命」か？エジプトのケース

- * ツイッターやフェイスブックという新しいツールを使ったことの意味。若者中心ではあるが、すぐに権力側も利用できることに注意が必要。
- * 若年層の比率が高く、かつ吸収できるだけの就業機会がないことが体制への不満の原因。
- * 第一次産業と第三次産業が中心で、工業部門が伝統的に若年労働力を吸収できない構造。
- * 従って、ムバラク体制を打倒しても、若者の不満は緩和する可能性が低い。次の体制に対するビジョンはない。
- * 膨大な軍事援助を米国から受けてきたエジプト国軍が民意に従うか？パレスチナ問題との関係。
- * 混乱した米国の姿勢。理想主義と現実のギャップ。
- * ムスリム同胞団の動向。自由公正党はトルコがモデル？
- * 最終的には、イスラーム的公正の実現への要求が高まる。

2. リビアへの介入、シリアへの不介入というダブル・スタンダード

- * 奇妙な体制だが欧米には逆らわなかったリビアへの軍事介入。誰が「反乱」の主役なのか？
- * 1982年のハマ暴動を記憶しているシリアの国民。アメリカをはじめ西欧諸国は、なぜシリアへの介入を躊躇しているのか。
- * シリアという国家の権力構造と国際関係のなかでの位置づけ。

3. 中東民主化のモデルとしてのトルコ

- * 公正・発展党（AKP）は、「イスラーム主義」だが「絶対不可分の共和国」については妥協しない。
- * 国民国家（nation state）の枠組みを堅持したうえで、ムスリム国家としてイスラームの政治での可視化を志向。
- * ここまで来るのに90年を要した理由。「世俗主義」と「絶対不可分の共和国」の決然たる擁護者としての軍は、なぜ前者について力を失ったか。
- * 今後の中東諸国での民主化では、国家の枠組みは維持しつつも、イスラーム的公正を実現する方向以外に民主化の道はない。現状で、それを実現しつつあるのはトルコ。